おおみや教会通信　７月号　2024.7.21 発行

Newsletter of Omiya Catholic Church
おおみや教会通信

遅い梅雨入りの後、急に暑さが厳しくなりました。体調を崩していませんか？雨が少ないことも気になります。いつも神様に祈ります。

皆さんは**カルロ・アクティス**という青年をご存じですか？1991 年にロンドンで生まれ、2006 年わずか 15 歳で白血病で帰天したイタリア人青年です。

2020 年に教皇フランシスコにより列福され、来年列聖されると言われています。

1991 年といえば平成 3 年、たった 15 年間の人生で、聖人となるとは信じられないことですが、幼いころから聖体の秘跡への賛美と聖母への崇敬が深く、得意なコンピューターを使って、世界の聖体の奇跡に関するウェブサイトを作成し、キリストの教えを世界中に広めたと言われています。

現代においても、深い信仰によって、自分の得意分野を用いて神のみ旨を行う素晴らしい若者がいることは、私たちを勇気づけてくれます。

福者カルロ・アクティスのために祈ります。

「ご聖体をいただけばいただくほど、私たちはキリストのようになっていく。そうすれば私たちは地上で天国を味わうだろう」

カルロ・アクティス

聖年のロゴマーク

来年２０２５年は聖年（ローマ巡礼などの宗教行為に免償を付与する年として始まった。２５年ごとに制定される）です。テーマは「希望の巡礼者」です。

今年は聖年を迎える準備期間として、祈りを深める年であるよう努めることが願われています。個人的な生活の中で、教会生活の中で、世界の中で、祈りの素晴らしい価値と祈りの絶対的な必要性を発見できますように。

この聖年のロゴマークは全人類を代表する４つの像を表し、互いに抱き合っている姿は、すべての民族を結びつける連帯と友愛を表します。

また先頭の像が十字架を掴み、信仰と希望を意味します。

人物の足元の荒波は、人生における試練、十字架の下部のいかりは希望を表しています。詳しくはカトリック中央協議会の HP をご覧ください。

内容【聖年のロゴマーク】【青年会】【信徒委員会】集会祭儀・聖母被昇天ミサ・その他
【典礼部】ミサのキリアーレ【地区部】感謝の集いミサ【被災者支援カレーの会】
【ハリーさん、さいたま市広報誌に登場】【サモア～主によばれて（３０）】

青年会より

カトリック大宮教会青年会の活動報告です。

【MFC の会】

新しい企画として、英語を使ったレクリエーションを行いました。

次回の集いは 7 月 28 日ミサ後 12：15～2 階ナザレの部屋（和室）で、夏に行う新しい活動について話し合いなどを行う予定です。

ぜひご参加ください。

【音楽グループ-Musical group-】

7 月は新たに日本語の歌を練習しました。日本語でも結構難しく、みんな集中して練習していました。

次回の集いは 8 月 4 日ミサ後 12：30～13：30、2 階ヨハネの部屋で行います。途中からでも参加できます。興味のある方はぜひご参加ください。

代表　石黒

＜信徒委員会・各部からのお知らせ＞

＜信徒委員会より＞

・**集会祭儀**

7 月より毎月第一日曜日 11:00～は集会祭儀となります。「集会祭儀はミサではないので、参加しない」という方もいらっしゃいますが、集会祭儀はミサに劣る典礼ではありませんので、変わらずご参加ください。

・**聖母被昇天のミサ**

8 月 15 日（木）11:00～行います。

・レクイエムと墓地管理委員会が現状どこにも組織上属していないため、信徒会会則中にある、「特別委員会」に位置付けることが決定しました。

・**2 階のパーテーションで仕切られたコーナーについて**

幼稚園にお貸ししていましたが、移転が完了し、原状復帰されました。青年会の部屋として使用可能です。

＜典礼部より＞

・ミサのキリアーレ（4 つの賛歌：いつくしみ、栄光、感謝、平和）について

昨年ミサで皆が声を出して歌うことができるようになって以来、塩田泉神父様作曲の賛歌を歌ってきましたが、山口神父様のミサをより豊かにするために、中央協議会の「全国版（A）」も歌えるようになった方がよいとのご意向を受け、聖歌隊で練習を始めています。

オルガニストと聖歌隊が習得した後、10 月のミサより会衆も歌うことになりました。併せて「主の祈り」も「全国版」に変えることになります。定着するまでしばらくは全国版を継続する予定です。最初は戸惑うと思いますが、よろしくお願いいたします。

＜地区部より＞

感謝の集いミサ 9 月 15 日（日）11：00～

ミサの中で祝福を行います。（会食、茶話会、写真撮影はありません）

「被災者支援カレーの会」より

毎月第二日曜日、ミサの後に被災者支援カレーにご協力をお願いします。召し上がって下さった方、ご寄付下さった方、多くの方々に感謝いたします。

8 月と 9 月は暑さのため、お休みさせていただき、10 月から再開いたします。

よろしくお願いいたします。

ハリーさん、さいたま市広報誌に登場

見沼区のハリー・タートンさんがさいたま市北区の広報誌 6 月号の表紙（私と盆栽）に登場しました。埼玉が誇る日本文化である盆栽を世界中に広めるために、いつも活躍されている様子が伝わってきます。

記事のコピーは受付に設置していますので、ご覧ください。またさいたま市のホームページからも閲覧可能です。

【市報さいたま北区版「きた」2024 年 6 月号　転載承認済】

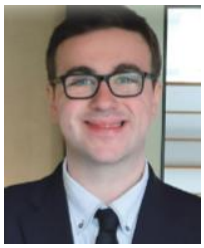
私と盆栽

令和７（２０２５）年、大宮盆栽村は開村 100 周年を迎えます。

名品盆栽の聖地と知られる大宮盆栽村は、国内外から多くの愛好家が訪れます。また、区内には公立では世界初となる大宮盆栽美術館が開設され、北区は盆栽と密接な関係にあります。

こうした中、世界に誇る盆栽文化を継承し、時代へつないでいく活動をしている方々がいます。そこで、盆栽や活動に込める思いを伺います。

勤務先の大宮盆栽美術館で、ガイドを終えたタートンさんにお話を伺いました。



―盆栽との出会いは？

来日前にも盆栽の存在は知っていましたが、日本文化を表すもの、鉢で育てる小さい木、という程度の認識でした。国際交流員として大宮盆栽美術館に赴任しなかったら、出会うことはなかったと思います。

－国際交流員としての業務内容は？

大宮盆栽美術館の資料の翻訳、公式ホームページや Facebook などの SNS を通じて、日英 2 か国語での情報発信をしています。また、昨年から始めたインターナショナル・ギャラリーガイドにも注力しています。以前から当館の学芸員がガイドを行っていましたが、来館する外国人により深く盆栽を知ってほしいとの思いから、展示作品の見方や見どころ・魅力を英語で解説するガイドを新たに始めました。原則、毎週金曜日の午前と午後に１回ずつ実施していて、毎回５～１０人程度の方にご参加いただいており、好評です。

－外国人に盆栽は人気？

盆栽は外国人にも人気です。来館者の中でも、外国人は特段熱心に鑑賞している姿をよく見ます。日本で学んだ“盆栽”を自国に持ち帰り、その国の風土に合った植物を盆栽に仕立てていることが面白いです。例えば、オーストラリアではユーカリの盆栽が見られるなど、バラエティに富んでいます。また、育成や管理の仕方、飾り方なども、日本のやり方・流派を踏襲する人もいれば、その国の文化を取り入れてカスタマイズする人もいます。それは、盆栽がかつて中国から日本に広がり、日本文化に触れて変化してきた流れと同じです。そのような広がりに、盆栽の今後の可能性を感じます。

－タートンさんにとって、盆栽とは？

芸術です。雄大で尊い自然を、限られたスペースの中で表現しているのが魅力です。日本の精神をよく表していると思います。季節や天気によって様々な表情を見せてくれる盆栽は、私にとって生きている“芸術”です。

ハリー・タートンさん

大宮盆栽美術館勤務。イギリスのチェシャー州出身。２７歳。ＪＥＴプログラム（語学指導等を行う外国青年招致事業）を活用し、令和３年に来日。外国語教育の充実や地域の国際交流を図る国際交流員。国内外を問わず、盆栽の魅力を発信している。

✝　サモア～主に呼ばれて　（３０）✝

サモアに着いて初日の朝、起きてみると台所にボランティアが集まっていました。そのうちの一人がスポンジケーキを焼いていて、焼きあがったようでした。

たらいの中に水をはり、そこに大きな缶を置いて、皿に乗せたスポンジケーキを置いていました。どうしてかと尋ねると、ありがすごいのでそれを防ぐためとのことでした。「ありには注意」というのを初日から教えられました。ちょっとでも、食べ物が出ていたり、水が少したまっていたりするところなどには、すぐにありが集まってきます。もちろん建物の材木もやられています。1 年中暑いからか動きは活発です。

その週は、授業をしなくてよいとのことでした。毎日何をして、何を食べていたか全くと言っていいほど思い出せません。ただ、ニュージーランド人の男性のボランティア（バーニー）から、スパゲッティの缶詰をもらって、それを食事にしたことだけは覚えています。

缶詰のスパゲッティは初めて食べましたが、スパゲッティがゆですぎたうどんのように柔らかくておいしくなかったです。あまりにおいしくないので、自分でも買わず、もらい物以外は食べませんでした。

土曜日は、私の歓迎会ということで修道院のシスターたちとボランティアの先生でビーチに行きました。修道院のピックアップトラックという車で行きました。

ピックアップトラックというのは、乗用車の後ろが荷台になっている車です。座席には 5 人乗れます。日本では荷台に人が乗ってはいけないのですが、サモアはそんな規則はないので、荷台にも人が乗ります。荷台に乗ると風を感じられるので、荷台に乗るのが好きでした。

行き先は、パラダイスビーチというビーチです。映画「リターン　トゥ　パラダイス　ビーチ（Return to Paradise beach)」のロケ地になった場所です。修道院からは島を横断する道路を通って、島の南側に出るとすぐです。だいたい 30 分ちょっとで到着します。

ビーチの入り口では、村の子供が番をしていて、入場料を取られます。その頃は、一人 1 タラ（サモアドル　約 50 円）ほどでした。人はいなくて静かですし、ヤシの木もあり南国のビーチっぽいですが、サモアは火山島なので、砂浜が広がっているという感じではないです。白い砂浜が少しで、海は黒い溶岩が多いです。シスターたちが作ってくれたサンドイッチを食べ、楽しい時間を過ごすことができました。

日曜日はミサです。修道会と学校は教会に隣接しているので、教会まではあっという間です。ミサの開始時間は 10 時でした。神父様は一人いました。ミサはもちろんサモア語、オルガンはないので、大きな木をくりぬいた太鼓のようなもので、歌の伴奏をします。

村の有力者たちがその太鼓のようなものを伝統的なコスチュームを着てたたいています。会衆も正装してきます。正装といっても女性は、ワンピース、男性は上にシャツを着て、下はラバラバというスカートのようなものを身に付けます。女性の方は分かると思いますが、これは涼しくていいです。

ミサが終わって、ボランティアハウスにいるとシスターが食べ物を届けてくれます。日曜日の昼食は決まってサモアの伝統的な料理の「ウム」というものでした。タロイモ、青いバナナやパンの木の実というものを蒸し焼きにします。朝のうちに火を焚き、石を熱くしてその上にそれらの食材を乗せて、バナナの葉っぱをかぶせます。ミサの間、そのまま置いておけば出来上がりです。タロイモには、パルサミというココナツミルクを何かの葉っぱと和えたものをあたためたソースのようなものをつけて食べます。このパルサミがおいしくて、日曜のお昼は楽しみでした。

のんびりしていたのもつかの間、いよいよ次の週から授業が始まります。数学は 1 週間に 5 時間、毎日同じ時間に同じクラスを教えることになっていました。教科書も少し見ましたが、日本のとは教える配列が違うのと、練習問題がほとんどないので、戸惑いました。

見沼区　斉藤

🍀おおみや教会通信はカトリック大宮教会のＨＰ（https://catholic-omiya.net）でご覧になれます。

＊ご意見や投稿（本などの感想、特集してほしいことなど）を募集しています。

FAX か郵送で受け付けています

〒330-0803　さいたま市大宮区高鼻町２丁目３５０　FAX 048－641－2724

カトリック大宮教会　広報部宛

＊おおみや教会通信　8 月号は 8/15 発行予定、原稿締め切り 8/4